

自閉症児の乳幼児期の発達と支援

高橋 脩（豊田市福祉事業団 理事長）

自閉スペクトラム症のある子（自閉症児）は、定型発達児とは少し異なるユニークな特性（認知・感覚、行動、発達）をもっています。自閉症児を含め障がいのある子の支援の目的は、定型発達を目標にその状態に近づけることではなく、子どもの特性や性格・願いを知り、それらを大切に育てと自己実現を支えることにあると考えます。それが、子ども主体の育ちの支援であり、子どもがありのままの自分を受容・肯定し、誇りをもって生きることにつながる道でもあると思います。従って、まず支援者が行うべきは、なにを子どもにするかではなく、どんな子どもなのかをよく知ること、すなわち「する前に知ること」であり、それが分かってはじめて子どもの特性などに合わせて関わることができると思います。

講演では、上記の観点から乳幼児期の自閉症児の発達と支援について、育ちにとって重要な身近な人との愛着関係や子どもとの関わりを中心に述べたいと思います。

■プロフィール

高橋 脩（たかはし おさむ）

1946年鳥取市生まれ。1972年に鳥取大医学部医学科を卒業後、長年にわたり障がい児医療・福祉に携わる。鳥取大学医学部精神科で研修後、国立鳥取療養所、愛知県心身障害者コロニー中央病院、東大阪市療育センターを経て、オーストラリア・シドニー市にある Royal North Shore Hospital で約1年間研修。帰国後は再び愛知県心身障害者コロニー中央病院に勤務、同病院総合診療部長などを経て、1996年に豊田市が開設した豊田市こども発達センターのセンター長に就任。2015年に退任後は同センターなどを運営する豊田市福祉事業団理事長となり現在に至る。専門は児童精神医学、ことに発達障がいである。